

AI時代だからこそ、手仕事の価値を。地元職人が母校で教える「大工の技」と「ものづくりの心」 ～館腰小学校にて、建設職組合による特別体験授業を開催～

名取市建設職組合は、地域貢献活動の一環として、名取市立館腰小学校において、大工道具の使い方やものづくりの楽しさを伝える「特別体験授業」を開催いたします。本取り組みは令和5年より継続して実施しているもので、今年度も地元職人が講師となり、児童に“本物の仕事”を伝えます。

■ 授業の見どころ・ハイライト（過去の授業風景）

① 本物の道具に触れる体験



トンカチやノコギリなど、普段なかなか触れることのない大工道具を使用。現役の職人が安全に配慮しながら、正しい使い方を直接指導します。教室には釘を打つ音が響き渡ります。

② 世界に一つだけの作品づくり



市販のキットをベースにしつつ、児童一人ひとりが自由な発想で加工。完成する作品はすべて異なり、まさに“世界に一つだけの作品”が生まれます。

③ 白熱の「釘打ち早打ち対決」



授業の締めくくりには、児童が指名した職人と対決を実施。プロのスピードと正確さを目の当たりにし、「職人のかっこよさ」を体感する時間となります。

■ なぜ今、小学生に「大工」「建設の仕事」を伝えるのか



近年、子どもたちの将来の夢として YouTuber などが注目を集める一方で、私たちの暮らしを支える家・道路・学校といった社会基盤を担う建設業に触れる機会は年々少なくなっています。

本授業は、地域での活動を通じて生まれた名取市立館腰小学校との交流がきっかけで始まりました。「子どもたちに地域の仕事やものづくりの現場を体験させたい」という学校側の要望を受け、その趣旨に賛同し、同校の卒業生でもある名取市建設職組合青年部長が、「地域への恩返し」と「建設業の魅力を次世代に伝えたい」という想いのもと企画し、継続的な授業として実施しています。

デジタル化や AI 化が急速に進む現代だからこそ、自らの手で形をつくる喜びや、人にしかできない「職人技」の価値を、実体験を通して子どもたちに伝えることを目的としています。

■ 名取市建設職組合の想い

名取市建設職組合は、単なる業界団体ではなく、地域の皆さまが住まいや建設のことを安心して相談できる存在でありたいと考えています。

この特別体験授業を通じて、子どもたちには「ものづくりの楽しさ」と「働くことの誇り」を保護者や地域の皆さまには、「建設業の役割」と「将来性」を伝えることで、地域に根差した活動を今後も継続してまいります。

■ 開催概要

[日時] 2026年2月2日(月) 10:40~12:15 及び 13:20~14:55 3年生対象 63名

5日(木) 10:40~12:15 及び 13:20~14:55 4年生対象 62名

[会場] 名取市立館腰小学校 (宮城県名取市植松字入生24)

[講師] 名取市建設職組合 青年部及び熟練職人

■ メディア関係者の皆様へ(取材のポイント)

映像・写真映え

真剣な表情で木材と向き合う子どもたち、職人との釘打ち対決など、躍動感のある画が撮影可能です。

インタビュー対応可

企画者である青年部長(館腰小学校OB)や、初めて工具を手にした児童の声を取材いただけます。

■ 本件に関するお問い合わせ先

[問い合わせ先] 名取市建設職組合



各種リンク